

(Ⅱ) 昭和47年のカツオ漁況について

1. 漁況の経過

昭和47年沖縄近海で操業した沖縄県船は34隻(10~46トン)で漁獲量は2,500トン、1隻当73トンの並漁(平年並)であった。漁期は4月に始まり6月から本格漁に入り9月には大多数が終漁したが、一部は10月まで操業し例年と同様であった。先島南海域では漁期間をとおして流木付群の発見率が高く、魚体は小判主体であった。

| 海域   | 項目 | 隻数 | 漁獲量トン  | 一隻当漁獲量トン |
|------|----|----|--------|----------|
| 沖縄海域 |    | 34 | 2,500  | 73       |
| 南方基地 |    | 42 | 16,730 | 398      |
| 遠洋   |    | 7  | 4,098  | 585      |

表Ⅲ-1-1 昭和47年海域別カツオ漁獲量

2. 標本船調査結果

標本船調査は沖縄本島北部K丸、宮古島佐良浜R丸の2隻の協力を得て行った。沖縄北部K丸の漁場は例年同様沖縄北西ソネ海域であり漁期は4月~10月で延120日間の出漁日数であった。年間総漁獲量は80.5トン、1日当662kgで漁況の経過は表Ⅲ-1-1にみるとおり4月5月にやや好調、6月7月低調、8月9月好調であったことは例年夏場の7月8月に盛漁期となるパターンとは異なる。全般に漁況は低調であった。活餌はミズン(55.4%)、コノシロ類(15%)が主な飼餌であり、その他ミナミキビナゴ、タカサゴ幼魚、テンジクダイが若干使用された。尚、初漁期~8月上旬はコノシロ類が多く、8月中旬~10月下旬は主にミズンが使用された。

宮古R丸は年間88.9トンの水揚で6月~8月に好調な漁事がみられ、77日間の出漁日数であった。漁場は宮古島SW~SEと北側にあった。付物は流木付群が多く魚体は小判主体であった。活餌はタカサゴ幼魚、テンジクダイ類である。

| 船    | 月 | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月 | 計    |
|------|---|------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 沖縄K丸 |   | 13.7 | 13.6 | 5.6  | 7.0  | 17.4 | 13.1 | 9.8 | 80.5 |
| 宮古R丸 |   | -    | 3.9  | 21.0 | 25.5 | 22.5 | 16.0 | -   | 88.9 |

表Ⅲ-2-1 標本船カツオ漁獲量月別変動(昭和47年) 単位トン

3. 県下カツオ水揚量の年推移

沖縄県下カツオ漁獲量の階層別年推移を表Ⅲ-3-2に示した。これから近海の水揚は年変動がありしかも漸減傾向にある。一方南方基地と大型船の水揚は急激に上昇しており見掛上飛躍的に発展しているように見える。しかし県内各地に基地をもつ近海操業船は表Ⅲ-3-1にみるとおり隻数の減少と水揚量の減少が著しい。しかし単位当漁獲量は年々増減をみながら推移している。

魚体組成の年変化について表Ⅲ-3-3に示した。これから例年中大判カツオが主体であるが1971年以降小判カツオ主体に変化しており魚体の小型化がみられる。

| 項目<br>年 | 漁獲量   | 隻数 | 一隻当  |
|---------|-------|----|------|
| 1972    | 2,500 | 34 | 73   |
| 1971    | 2,561 | 34 | 75   |
| 1970    | 3,511 | 39 | 90   |
| 1969    | 2,089 | 49 | 43   |
| 1968    | 5,602 | 53 | 106  |
| 1967    | 4,682 | 53 | 88   |
| 1966    | 3,068 | 61 | 50   |
| 1965    | 3,350 | 62 | 54   |
| 1964    | 5,000 | 62 | 81   |
| 1963    | 5,143 | 70 | 77   |
| 平均      | 3,750 |    | 73.8 |

表Ⅲ-3-1 近海カツオ船(5~50吨)の漁獲量年推移 単位トン

| 項目<br>年 | 漁獲量    | 沿岸5<br>吨以下 | 5~50吨 |        | 50吨<br>以上 |
|---------|--------|------------|-------|--------|-----------|
|         |        |            | 近海    | 南方基地   |           |
| 1972    | 23,946 | 161        | 2,500 | 16,730 | 4,098     |
| 1971    | 21,694 | 244        | 2,561 | 16,677 | 2,212     |
| 1970    | 9,780  | 386        | 3,511 | 4,839  | 1,034     |
| 1969    | 3,487  | 226        | 2,089 | -      | 1,172     |
| 1968    | 6,134  | 399        | 5,602 | -      | 133       |
| 1967    | 4,992  | 311        | 4,682 | -      | -         |
| 1966    | 3,521  | 408        | 3,068 | -      | 45        |
| 1965    | 3,678  | 245        | 3,350 | -      | 83        |
| 1964    | 5,240  | 164        | 5,000 | -      | 76        |
| 1963    | 5,375  | 198        | 5,143 | -      | 34        |

表Ⅲ-3-2 沖縄県カツオ漁獲量の階層別年推移

| 年    | 魚体 | トビ大  | 大判    | 中判    | 小判    | ビリ   | 備考  |
|------|----|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 1966 |    | 1.7% | 27.9% | 25.6% | 37.5% | 7.0% | 大不漁 |
| 1967 |    | -    | 22.7  | 29.2  | 48.6  | -    | 豊漁  |
| 1968 |    | 3.1  | 38.2  | 45.1  | 10.9  | 2.7  | 大豊漁 |
| 1969 |    | 1.3  | 37.9  | 22.7  | 28.1  | 10.0 | 大不漁 |
| 1970 |    | 1.0  | 28.5  | 31.6  | 31.3  | 5.3  | 豊漁  |
| 1971 |    | 2.4  | 11.0  | 10.6  | 67.1  | 8.9  | 並漁  |
| 1972 |    | 1.8  | 1.9   | 11.0  | 78.5  | 6.6  | 並漁  |

表Ⅲ-3-3 沖縄近海魚体組成の年変化

#### 4. 南方基地カツオ釣漁業について

1970年から南方基地カツオ釣漁業は本格的に始った。沖縄県船は大手企業のキャッチャーとして多数出漁している。現在までに入手した漁獲成績報告を整理した結果を表Ⅲ-4-1に示した。

南方出漁船の動きは本社が日本・米国籍企業であるためその動態はつかみ難いが、出漁船は20~50トンの規模で年間漁獲量は年々増大し、'70年4,872トン、'71年16,568トン、'72年18,165トンである。1隻当漁獲量は'70年443トン、'71年613トン、'72年433トンであり、'72年は低調であった。一方出漁船は'70年11隻、'71年27隻、'72年42隻であり、'72年は沖縄近海操業船を上回っている。主要基地について漁獲量の季節変化をみるとラバウル、ケビアンでは周年漁獲があり6~8月に若干盛漁期がある。ソロモンも周年漁獲があり8~10月に盛期がみられる。

南方の各基地において対象とする資源は開発初期段階の資源であるためその季節及年変化、系統群等また開発可能資源量については興味ある問題であるがそれは今後の研究と資料の蓄積を待

つべきであろう。

| 年<br>項目<br>計 | 1970年 1) |    |            | 1971年 2) |    |            | 1972年 3) |    |            |
|--------------|----------|----|------------|----------|----|------------|----------|----|------------|
|              | 漁獲量      | 隻  | 一隻当<br>漁獲量 | 漁獲量      | 隻  | 一隻当<br>漁獲量 | 漁獲量      | 隻  | 一隻当<br>漁獲量 |
| 基地名          | 4,872    | 11 | 443        | 16,568   | 27 | 613        | ※18,185  | 42 | 433        |
| ケビアン         | 2,410    | 4  | 602        | 2,588    | 4  | 647        | 4,806    | 10 | 480        |
| ラバウル         | 172      | 5  | 34         | 6,375    | 9  | 708        | 5,074    | 12 | 422        |
| マヌス          | —        | —  | —          | 2,219    | 4  | 555        | —        | —  | —          |
| マダン          | —        | —  | —          | —        | —  | —          | 1,106    | 7  | 144        |
| ソロモン         | —        | —  | —          | 4,683    | 6  | 780        | 7,199    | 13 | 534        |
| パラオ          | 2,289    | 2  | 1,145      | 700      | 3  | 233        | —        | —  | —          |

表Ⅲ-4-1 南方基地カツオ釣漁業漁獲量(1970年~1972年)

注 1)ラバウルは12月のみ操業 2)ポナペ、トラック、セレベス出漁船あるも未報告  
3) 2)と同様

5. 昭和47年琉球海域におけるカツオ漁況の長期予報(5月~10月) 昭和47年6月17日発表  
今年5月~10月の漁期間に沖縄県籍カツオ船(5~50トン)によるカツオ漁獲量を海域別に次のとおり予想をたてた。沖縄西側漁場では1隻当98~100トン、計900トン程度になろう。宮古周辺漁場では1隻当70トン前後計400~500トンになろう。八重山周辺漁場では1隻当65~70トン、計1,300~1,400トンになろう。県全体として1隻当漁獲量は68~70トン、全体で40隻前後が出漁すれば近海カツオ船の漁獲量は2,800~2,900トンに止まり平年並以下の漁となろう。

理由

1. 漁期前の回遊状況 4月下旬当該調査船の調査によると先島南海域では漁場の東西方向の広がりが過去2年の同期に比べ今年は狭く中心が西方にあり石垣島寄りにある。発見魚群数は少いが群は大きく流木付シビ混りが主体で体長は42cm台である。宮崎県中小型船のカツオ水揚げは3月に限ると過去3年のうち今年が最も多い。
2. 漁獲量の経年変化 近年近海カツオ漁獲量は減少傾向にある。1962年以降漁獲量は2,500トン(1971年)~7,200トン(1962年)である。漁獲量の変動から周期性は不明である。1隻当の漁獲量は57~95トン、平均76トンであり1966年を除くと隔年周期がみられ偶数年に好漁を示す。
3. 南方漁場(フィリピン東~カロリン海域)における夏季~秋季の漁況は翌年の琉球南海域における春~初夏のカツオ漁況との間に相関が認められる。昨年(1971年)の南方漁場におけるカツオ漁況は低調であったと推測される。
4. 魚体組成の経年傾向 魚体の階級を慣例に従い飛大、大判、中判、小判、ビリの5階級に区分し1966年以降の変化をみると小判カツオの優占出現年(全体の40%以上)が1年毎にみられる。40%以上出現した年は'67年'69年'71年で、40%以下の出現年は'66年

'68年'70年で周期性がみられる。今年の予想は中大判カツオが多く小判カツオは少くなる。以上のことから今年のカツオ漁況の予想するにあたり漁況面に限ると有利な要素が多い。

5. 海況 今年は暖冬異変型の気象経過であった。魚釣島  $25^{\circ}-45' N$ 、 $123^{\circ}-30' E$ の冬期1月2月の表面水温は  $21.9^{\circ}C$  で平均比  $0.55^{\circ}C$  低目である。春季の急上昇期が4月下旬にみられかつ冬季の水温変化は不規則である。与那国、宮古、久米島の沿岸水温は平均比  $0.6\sim 1.3^{\circ}C$  高目であった。これらは今夏カツオの来遊条件としては不利な要因である。尚今年4月下旬石垣南40 湊付近の表面水温は  $24.8^{\circ}C$  で前年比  $0.7^{\circ}C$  高目 100 m 層は  $23.4^{\circ}C$  で前年比  $1.4^{\circ}C$  高目であった。水温躍層は 90 m 付近にみられた。今年台風が発生数は平年並と予想され夏季に4~5ヶの台風が接近しよう。

(担当 友利)